

令和元年度 長野県食と農業農村振興審議会 木曾地区部会 議事録

令和元年 8 月 20 日(火) 午後 1 時 30 分から、木曾合同庁舎講堂において令和年度長野県食と農業農村振興審議会 木曾地区部会を開催しました。

1 出席委員 五十音順 (敬称略)

梅本 ふさ子委員 農村生活マイスター木曾支部長
奥牧 宏明 委員 木曾郡農業委員会協議会長
小林 克彦 委員 木祖村農林課長
塩澤 郷子 委員 ふるさと体験館 きそふくしま職員
志水 敏春 委員 木曾農業協同組合野菜生産部会長
下野 昌一 委員 大桑村長野西地区活動組織代表
高橋 忠久 委員 「道の駅」木曾川源流の里きそむら 駅長
田屋 万芳 委員 木曾農業協同組合代表理事組合長
長渕 充章 委員 長野県農業経営者協会木曾支部長
原 恵美子 委員 どぶろく研究会副会長

2 次第及び議事録

(1) 開 会

(2) 中坪 成海木曾地域振興局長 あいさつ

(3) 部会長選出

部会長 田屋 万芳 委員 木曾農業協同組合代表理事組合長

(4) 会議事項 (議長 田屋 万芳)

ア 第 3 期長野県食と農業農村振興計画について(冊子) (資料 1) (質問意見はなし)

イ 平成 30 年度木曾地域実績について (資料 2)

【志水委員】

長野県全体の新規就農の人数、就農後どのくらい残っているか。また、新規就農者の年齢層はどの位か。

【事務局】

県全体の就農者は、年間 200 名程で推移している、年齢構成では民間等に就職し 10 年ほど後に新たな職業の選択をすることから、30 歳代から 40 歳手前位で就農することが多い。

定着率では具体的に調査をした数字が無いが、里親研修制度で 2 年程度研修し独立就農をした方を見ても 80%から 90%は継続されている。

【志水委員】

国の支援の制度を活用している木曾地域の里親制度の人数はどのくらいか。

【事務局】

現在、木祖村で里親制度を活用し和牛農家での研修生が一人いる。

【長渕委員】

1 戸当たり子牛出荷頭数の目標が 6 頭ですが、6 頭は高齢化の中で達成が可能か。

また、「御嶽はくさい」の出荷量目標が 40 万ケースですが、実績では 32.8 万ケース であるが達成できるのか。

【事務局】

繁殖農家の事故率を減らすため、AI 技術を活用した機械を導入する方法や、飼育者の高齢化に対応した技術支援を行い、1 戸当たり子牛出荷頭数 6 頭を達成するよう努力していく。その他、若い就農者への施設整備への助言を行い飼育頭数を増やす支援をしていく。

「御嶽はくさい」については、担い手の減少、生産数量の減少等への問題に対し、JA 生産部会員の方と共に検討しながら、生産量の確保、品質向上、実需者への対応を進め、「御嶽はくさい」の産地の維持をしていく。

【原 委員】

圃場整備場、農道整備、用水路の整備、小水力発電の発電 32k wなど計画があるが、発電設備の容量が農業用水の活用とどのように関係するのか細かく説明してもらいたい。

また、アヤメ園の遊歩道の整備について、どのようになっているのか教えてもらいたい。

【事務局】

水力発電は2ヶ所上松町、南木曾町で行っている。

目的は2つあり、全国レベルの再生エネルギーのための農業用水の活用と、農業用水を利用した小水力発電での売り上げを将来の補修等に当てていくものである。

アヤメ公園池では、現在水が漏れている池の整備で、今の基準に合う整備を行い、防災上の対応をしていく。遊歩道は、木祖村と連携し補助事業を含めた整備方針を決めていく。

【高橋委員】

「御嶽はくさい」についてお聞きしたい、木曾地域に道の駅が5つあるのですが、「御嶽はくさい」の名前ではくさいを売られているところが地元でない。「御嶽はくさい」は、木曾地域の地元ブランドであるのにどこに行っているのか。どのように使われているのか。

おいしい信州ブランドと言いますが、地元に出てこないことに疑問を感じる。

【田屋部会長】

信州ブランドと言いながら地元に出てこないのは、ほぼ全量を東京、名古屋、大阪、京都の市場に出し、特に京都中心に漬物屋さんとの取引をしている状況から、地元になかなか出回らないのが実態。

【高橋委員】

長野県は漬物主体の県ですが、長野県でそれを漬物として利用していない、なのに「御嶽はくさい」をブランドとして評価していくのはおかしいのでは、また地元では、「御嶽はくさい」の利用ができない状況であるが、地元での流通を考えてもらいたい。

【事務局】

支援については、先ずハクサイ生産者への栽培技術の支援から取組んでいます。

次に生産者の所得・経営の向上への支援に合わせて、販売への協力を地産地消を含めた取組みをしながら進めていく。

続いて漬物用会社に地元産を使っていくように段階的に進めていきたい。

今までも、地域の旅館組合と連携し、Aコープから「御嶽はくさい」を供給してもらい、地産地消へ取り組んできた経過がある。

今後取組みを進めるには、生産者の皆さんの意向を聞きながらの取組が必要。

【高橋委員】

木曾牛につきまして木曾地域では木曾牛メニューがある、特に名古屋、東京から木曾牛目当てで来ている観光客が増えている、地元で「木曾牛ブランド」を育ててきた結果だと思う。

「御嶽はくさい」のブランド化のためにも、例えば直売所で出す100ケース、200ケース位は出されたらどうか。

仕入れが高くても適当な利潤が出るような価格で販売して育てて行けばよいと思っている。農協さんから出せないか、ぜひ検討してはどうか。

【志水委員】

決して地元に出したく無い訳ではない。種をまくときから「御嶽はくさい」は契約で売られている状況。

計画の段階で売れているので他に出すのは難しいが、生産部会で相談しながら地産地消に努めたい。

また、商標登録を木曾農協が持っており、個々の農家では「御嶽はくさい」として売れないことも御理解いただきたい。

ウ 令和元年度木曾地域実行計画について（資料3）

【田屋部会長】

今年度の実行計画についての御意見や、ご質問をお願いします。特に推進に当たっての御意見や重点的に取り組んでほしい事項などについて御提言をいただきたい。

【志水委員】

私どもの開田高原にイノシシが今年多く出る。冬雪が少ないとイノシシは多く電気柵を設置しているが間に合わないのが実情。

開田高原は、猟友会員が少ない。猟友会の方でないといわなければいけない。猟友会以外の私たちでも資格を取ればできるのか、若しくは説明会等あるか。

【事務局】

罾の狩猟免許が必要。狩猟免許の取得について林務課で事前講習をしている。

林務課の講習会では毎年多くの方に資格を取っていただいているので情報提供をする。

また、林務課で事務局をしている木曽地区の「野生鳥獣被害対策チーム」があり、そこで各町村のイノシシを含めた電気柵の点検を実施し改善点を指導している。年間を通して開催しているので、皆様へも案内する。

【志水委員】

中山間地域直接支払制度はいつまで続く事業か。

【事務局】

平成 12 年度から 5 カ年ずつ実施され、令和元年度で第 4 期対策の最終年となる。本事業は、耕作放棄地の発生防止、農道等の維持・管理等農業生産活動の継続の効果を発揮していることから本制度に取り組む都道府県の全て、及び市町村のほぼ全てから前向きに評価され、今後も継続の方針となっている。

【下野委員】

中山間地域直支払制度は私の聞いた話では半永久的に続くと言っている。

使い勝手がこちらから言わせると悪く、書類の提出が大変。多面的機能支払が平地でも適用となっているが、2 期目に入って大桑村では拡大するため、行政側で各地域に入って説明をしてもらっている。

事務担当は中山間の書類作成で懲りてしまっていてやらないところが出ている。

【高橋委員】

「木曽牛」、「御嶽はくさい」、「すんき」の 3 つの柱について取組みが進められているが、これ以外に、木曽谷として、どのような品目を推奨していくのか。

推進するには、農家の方が作ったものが効率よく売れるのが大前提。作ったものが売れなければならない。

計画では、販売する側が何を求めているか見えてきていない、計画で出ている「えごま」はとても売れていて全く足りない。また、産地表示が進めば、中国産は使われなくなることから、「えごま」はあと数年は大ヒットが続くと思う。加工施設では「えごま」が今年 1 トン程度欲しい状況、生で売ると考えると 2 トン位必要。今は高く売れる、そのようなものをもっと推奨してもらいたい。

私たちが加工施設を作る段階で、農産物の不足する項目がたくさんあり、特に雑穀類が全く足りない。今、木曽地域だけでなく、長野県の中のいろいろな市町村に頼っている状況。

木祖村の加工施設建設で加工品を作るに当たり、具体的に必要な農産物を提案していきたい。

【田屋部会長】

開田高原の、スイートコーン、インゲンについて、引き合いが強くインゲンは選別が非常に大変であるが一箱 3,000 円から 4,000 円で売れている。高齢の農家からは手間はかかるが非常に良いと評価をいただいている。そのような品目を加えながら木曽の特産品を皆で考えはどうか。

【事務局】

高橋委員からは、生産と販売、作ったものの出口をしっかりと考えていかなければいけない、というのが御意見の趣旨かと思う。

作る人と販売する人、加工する人たちとのマッチングについて、これからの活動に活かしていく。

「えごま」についても、これらのマッチングを進め、木曽の管内で生産販売体制づくりの支援をしていきたい。

【田屋部会長】

続きまして審議事項の「(4) 全体討議」に入りたいと思います。

ここまでの事務局から説明を踏まえまして、各委員さんよりそれぞれの専門の立場から、御意見・提言をいただき議論をしていきたいと思っています。

【梅本委員】

上松町の特産品開発センターで、「えごま」の搾油、販売等の活動をしている。「えごま」は簡単に放っておけばいいと言われていたが、できない時もありすごく難しいもの。

出来不出来があるため町では町内で作ったものに補助をしている。1kg 500円、今年はそれに300円上乗せする。そのため小豆や大豆を作らなくなり、「えごま」に移行している。

加工施設では、1kg 1,400円から1,000円程度で買い上げるので、地域での栽培をお願いしたい。

【奥牧委員】

農業委員会として一番問題になっているのが遊休農地対策。活用を担い手への集積という形で進めているが、今年の春に木曾町で、三岳の和牛繁殖の後継者に4.2haの一団地1集落そっくり集積することができた。国として人・農地プランを作って話し合いを進めているが、問題はなかなか進まないのが実態。

【小林委員】

今年度までが木祖村の第1期の総合戦略で、目標値が達成できたか検証を行い、来年度からの次期総合戦略の検討を進めている。

木祖村でも色々な取り組みをしているが、新規就農確保・育成を関係機関に協力をいただきながらやっている。はくさい農家が昨年13戸あったのが今年9戸。これは、新規就農を進めても農家の高齢化により後継者がいなくて辞めてしまうため。新規就農は今までどおり進めていくが、既存の農家の継承対策（親子関係、親せき関係）について、支援ができないか考えている。親子継承への支援について手を入れていかないと農家が減ってしまう。

防護柵として「えごま」の効果を聞いているが、牧草地の周囲に植えるなど試験的にやってみればいいと考えている。

【塩澤委員】

子どもたちへの食育・食農教育の機会があるが、40代くらいの世代がそれを学ぶ機会を作ってほしい。

ただの体験ではなく、次世代へ引き継ぐという意識を持った仲間づくりをして、学ぶことが必要。朴葉巻を作る体験だけでなく、米作りなどそれに関連した農業を教えてほしい。

体験施設で働いていても農業をする時間は勤務時間外になってしまっている。農業の苦勞の部分を大事にしてほしい。

すんきの製造量は増えているが、業者は在庫を抱えており、販売先がなく困っている。製造量だけでなく、販売量も見える形にしてほしい。

【志水委員】

野菜部会員の今後の方針としては、ある程度の数量が約束されないとブランドにならないし、お客様に伝えることができないと考えている。

新規就農者の支援が最も必要と考えているが、1、2年での支援ではものにならない。

それらの支援も含めて、1年に40万ケース出荷は守っていききたい。現在の生産者数21戸から、25戸まで伸ばして、40万ケースの目標を達成していきたい。

【原 委員】

地域が高齢化しており、電気柵を張っても、イノシシや熊にやられて作る気力がなくなっている。

地域では、結婚しない親1人子1人の世代が半分くらいで、次の世代へつながらない。そういった世代を何とか地域で支えていきたいが、そのような支援は無いのか。

20年後に地域がどうなるかわからないが、70代80代が頑張ってそばを作っている。そういう方たちを支えていこうと話している。

【長淵委員】

7月29日に農業経営者協会木曾支部では、「木曾地域に若者が定住するには」というテーマ

で話し合いをした。いかに若い人たちが木曾に住んでもらえるか、一人でも多くの人が木曾地域に住んでもらいたいが、どうしたらいいかということ話を話合った。

若い人たちの発信力、SNS を使って木曾のいいところをPRしてもらおう等の意見が出た。今後もししたら木曾に定住ができるかを考えていきたい、観光と連携した農業ができればよいと思う。

【高橋委員】

今年はずんきの種子が不足しており原因はわからないので、対策が必要ではないか。

概要版 12P の達成指標で、「売上高 1 億円以上の農産物直売所及び売上総額を 52 施設・151 億円から、将来的には 60 施設・200 億円」とある。道の駅はスーパー化している。「長野県産の農産物の比率」のデータも必要ではないか。

【下野委員】

先ほど中山間・多面的機能交付金が使えづらいといったが、交付金できた当時は翌年度に交付金が入ってきた。今年が多面的が7月、中山間は8月末に入るようになったことは大変ありがたい。

【田屋部会長】

各委員さんから出されました意見を事務局で取りまとめいただき、県の審議会へ報告をお願いします。

オ その他

特になし

カ 閉 会